『生ごみを宝に！』資源循環型社会を目指したまちづくり

資源循環型社会を目指した背景

20世紀の急激な日本経済の発展は「大量生産」「大量消費」「大量廃棄」の社会現象を招き、地球が数十億年もの長い年月をかけ自然の営みによって貯えてきた豊かな資源や環境を私達人間は、快適さと便利さとを引き換えにわずか100年で壊そうとしている。自然の循環や食物連鎖を無視した利益のみを追求する現在の経済社会に於いては、大量の化石燃料を消費することによって今日の繁栄が成り立っており、ＣＯ２やダイオキシンの大量発生を招いている。このような経済活動が地球温暖化・環境ホルモンなど環境破壊の原因となり、平和に暮らしている小さな島国の人々のみならず物言わぬ生き物たちの生命をも危うくしている。

一般廃棄物である生ごみ（家庭の生ごみ・事業系食品残渣）の処分及び再生利用については、本来市町村が取り組むべき制度となっている、しかし、全国的に可燃ごみとして大部分が有効活用されることなく焼却処分されている。

生ごみの堆肥化・廃食油の燃料化等の資源化事業は01年5月「食品リサイクル法」が施行されているにも関わらず、多くの市・町・村ではその必要性は認めていても実施されていないのが現状である。

しかしながら、食資源の循環は限られた資源国であるわが国では絶対的に必要な要件であり資源循環による持続可能な社会の基礎となる重要なものである。

伊万里の状況

伊万里市においても平成17年度人口約59,000人における可燃ごみの量は１日約45トン（生ごみ含有率40％）年間45,000万円もの大金で焼却処分し、約25,000ﾄﾝ／年の廃棄物である焼却残灰を生産している。　残灰の処理処分場もあと数年の余裕しかないと言われており、代替地問題が既に表面化している。また、廃食油処理においても不法投棄等で河川の汚染や整備されつつある下水管の梗塞などにもつながり、維持管理面でも「行政経費」の増大を招くものと思われる。最近本市では担当者による食品関連事業所のグリストラップ状況調査が始まっている。

大都市と農村の課題

福岡市のような大都市では今日でも問題になっている生ごみ資源化の件は食品リサイクル法の改正及びＣＯ２削減による地球温暖化防止推進運動等で社会問題となり、市の行政や食品関連事業所には大きな課題となってくるのではないかと思われる。

他方、中山間地では若者の流出による農業の衰退・過疎化による農耕地・山林の荒廃が進み、全国的に危機が叫ばれている。

しかしながら、資源の循環の「環」を切断してしまった現代社会のシステムの“おかしさ”に日本国民が気付かない限り、この事態はとうてい解決できない課題ではないかと思っている。

伊万里での事例

私達はこのような地域の課題を解決するため、生ごみや廃食油など有機性一般廃棄物を市民・企業・大学・行政との協働によって分別回収し、良質な堆肥を生産したり、廃食油は燃料化する等の資源化リサイクルを小規模ながらモデル的活動として実現させている。

さらに、生ごみ堆肥や廃食油ディーゼル燃料（ＢＤＦ）を活用した環境保全型農業や菜の花プロジェクト活動を通して近隣の農業者や小中高校生、市民ボランティア等との連携を深め、コミュニティ活動による地域の活性を目指している。

夢として

そこで、これまでの実践的体験を活かした大きなまちづくりの夢として、別紙１のように食資源を循環させ「産官民学」の協働・連携による半島や過疎地と大都会の課題を解決し、新たな産業創出と雇用を生み出すことによって地域の活性化とまちづくりを目指す事業を提案する。

「生ごみを宝に！」資源循環型社会を目指して…
～食資源を循環させ産官学民協働･連携による半島や過疎地と大都市の課題解決とまちづくり事業～

全国から

視察研修と観光事業
- 企業、地方自治体、市民グループの視察研修（民宿の活用）
- 体験実習を含めた長・短期滞在型研修
- 各地の大学による座学の協力
- 観光地をセットしたエコツアーの開発
- 「JICA」による海外研修者の受け入れ
- 民泊・農泊（グリーンツーリズム）の開発

体験型農業

ミクロ
微生物の研究

教育
- 全国の小中高、食育及び環境体験修学旅行
- 全国の大学生による微生物と資源循環・コミュニティー・地域通貨等の卒業論文研究

都市部の課題
- 大型飲食ビル、大型ホテル、大型スーパー等食品残渣の処理問題
- 食品リサイクル法による規制　100 トン以上の食品関連事業所の対策
- 定年退職者の増加
- ごみ焼却による行政経費の増大

資源と資金の供給
大量のごみ廃食油等

流通事業・BDF活用

各地の農山漁村課題
- 農業人口減少と高齢化の進行
- 若者の流出による農業の衰退
- 過疎化により農耕地の荒廃
- 高齢化による医療費･福祉費の増大

食材の供給及び都市へのアンテナショップ

都市と農村による地産地消

空地
空家の
情報
発信

家庭
菜園や
農作業等
市民の
参加

地域
通貨の
活用

生ごみの堆肥化、廃食油燃料化（BDF）事業の推進

各地の大学による支援
- 大学による「サテライト教室」の設置
- 微生物の研究開発（バイオガス・エタノール）
- 新エネルギービジョン
- バイオマスタウン構想
- 資源作物の研究開発

安心・安全な農産物及び加工品の供給

流通事業・BDFの活用

環境保全型農業の振興
- 生ごみの堆肥、廃食油燃料を活用し有機農業の推進
- 新規就農業者と既存農業者の協力による新たな農業形態の確立
- 菜の花プロジェクト活動の推進

畜産農家・果実農家との連携
観光農園へ発展

農産物直売所の整備

ホテル等のシェフと連携した農産物加工場の建設
雇用の創出

付加価値の高い農産物生産

若者の就農及び定年退職者の就農推進

バイオマスによる新たな事業開発と雇用の創出

建設業・土建業の新たな環境・農業への事業参加